

流用

ちょっと
拝見

色バタ+スミ40%
50a 新IB

色20%+スミ20%
(スミは)

となりの DAMカート

八戸赤十字病院の巻

30a 新IM

30a 新IM

2ミリ

0.5ミリケイ
スミ20%
142ミリ
86ミリ

×63ミリ
Y68ミリ

0.3ミリケイ・色バタ+スミ40%
37ミリ
166ミリ

×23ミリ
Y124ミリ

基本情報

手術室7室に対して DAM カート1台
W 60 cm × D 60 cm × H 110 cm

DAM カートは、手術室中央の麻酔科管理室を出てすぐの壁際に設置してある。

バッグバルブマスク、McGRATH™ MAC と専用ブレード (#3/ 4/X ブレード)、経鼻エアウェイ、
気管チューブ数本は、各手術室と HCU、救急外来に配備されている。

情報提供 八戸赤十字病院 麻酔科 山田 直人 先生

指定外
11a 新IB

1234 ● LISA VOL.11 NO.1 2004-1

色バタ+スミ40%
スミ・白スミ

6ミリ
142ミリ

Y255ミリ

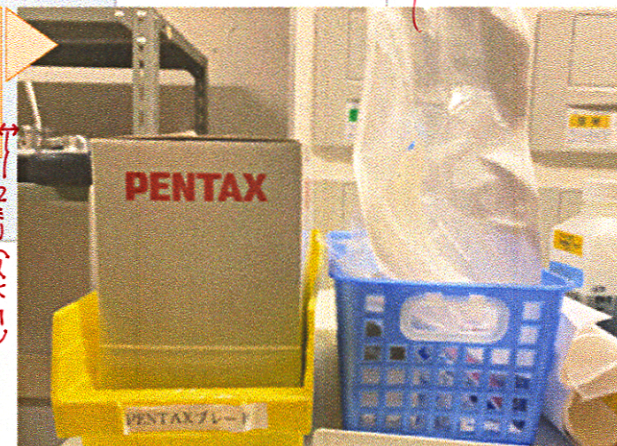
13a
ロタンDB
↓
20H

14a
ロタンDB
↓
20H

15a
ロタンDB
↓
20H

ちょっと拝見◆となりのDAMカート

- 上面
 ●エアウェイスコープ (AWS)
 成人用細型イントロロック数本
 ●Dams TuLip-i 1個



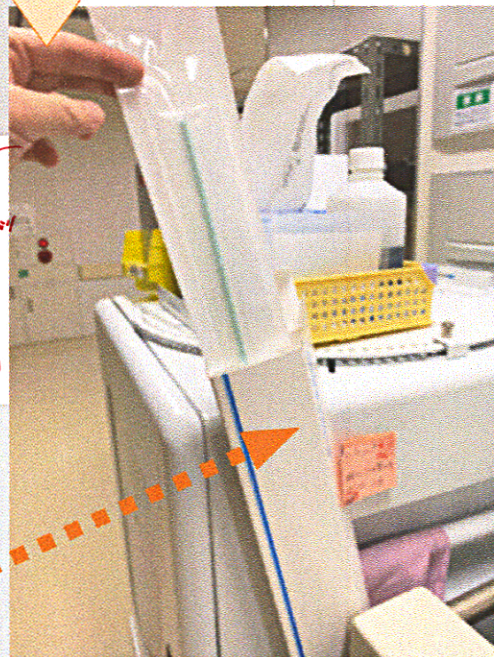
- 引き出し1段目
 ●使用なし

- 引き出し2段目
 ●McGRATH MAC
 本体1台 (予備),
 ブレード数本
 ●電池

- 引き出し3段目
 ●気管支ファイバー
 本体1台
 ●サクシジョンセーファー

- 引き出し4段目
 ●クイックトラック 1個
 ●サクシジョンセーファー
 3個
 ●サヌキエアウェイ 3個

- 左側面
 ●チューブイントロデューサ 3本



- 引き出し5段目
 ●気管支ファイバー 本体1台
 ●AWS 本体1台, イントロロック数本

- 機在庫
 ●i-gel®
 ●LMA プロシール
 ●経口エアウェイ
 ●経鼻エアウェイ
 ●気管チューブ各種



コメント

八戸赤十字病院 (以下、当院) では、先代部長が整備したDAMカートをもとに改良して使用しているが、日本麻酔科学会の気道管理アルゴリズムに沿った物品がカート内に揃っておらず、さらにカート自体が重く機動性が低いことから、筆者としては再整備の必要性を感じている。もっとも各手術室にビデオ喉頭鏡とエアウェイが常備されており、機在庫にも物品を保管していることから、着任から2年間で、仕事上ひどく困るような事態は起こっていない。当院では脊椎手術が多く、ハローベスト装着中の患者にはAWSをよく使う (パイルダーオン法*だと、ヘッド部分がハローベストに当たらないため)。またMcGRATH MACは、困難症例でなくとも日常的に使っている。気管支ファイバースコープの出番はまれである。一方、DAMカートを活用することの良い点として、若手医師、スタッフ向けの勉強会を定期開催してデバイスの使い方を学べるのが挙げられる。

個人的には、①開口制限対策用のビデオスタイルットと小児用AWSイントロロックNKの追加、②クイックトラックでなく、輪状甲状間膜の切開用にメス、曲がりペアン、穿刺用にトラヘルパーの追加 (ミニトラック販売中止のため)、③大きく重いDAMカートコンパクトで各部屋に持ち運びやすいものに変更、④チューブエクスチェンジャーの追加 (実はイントロデューサーで代用している)、を希望している。

*鈴木昭広ほか、日麻麻誌 2007; 27: 151-8.